平成29年度ＮＩＥ実践報告

鹿児島県立鶴翔高等学校

１　はじめに

ＮＩＥ実践校の指定を受け３年目となり，今年度は実践計画として次の４項目を挙げて取り組んできた。

⑴　毎日行っている朝読書のうち，金曜日を「ＮＩＥタイム」と設定し，全校生徒で新聞記事を読み，感想を書く。

⑵　南日本新聞の広場欄「若い目」への投稿

⑶　校内掲示の工夫

⑷　小論文・作文の個別指導での活用

欲張らずに続けられる実践を念頭に行ってきたつもりだが，学校全体の取組としてはまだまだ十分ではなかったと反省している。今回は，実践計画に基づいて継続的に行ったものと，それとは別に個人的に国語の授業で取り扱ったものについて報告する。

２　実践内容

⑴　ＮＩＥタイム

実践指定以来ずっと行っており，10分間で記事を読み，感想や考えを書く取組である。今年度は昨年度の反省をふまえ，図書委員会で記事を選ぶこととした。当番の生徒に昼休み等の活動時間を利用して，気になる記事を選定してもらった。生徒が興味を持ちそうなことや知識として蓄えておきたいこと，関心を持っていてほしいことなど，高校生目線で選ばれた面白い記事が多かった。４月から１月まで27回行った中，いくつか取り上げる。

朝日新聞　6/16　いま子どもたちは　三十一文字（みそひともじ）

記事を読んで，今の自分の気持ちを短歌で表現する。

・分からない自分の夢が決まらないいろいろあってたくさんあって（１年男子）
・いろいろとやること多く忙しい休みの日まで部活ざんまい（１年女子）
・テスト前眠い目こすり数時間いつも以上に気合いを入れて（２年男子）
・目標を持って臨めば何事も成果がきっと見えてくるはず（２年女子）
・３年生さまざまな想い胸に秘め明るい夢持ち自分の進路（３年男子）
・追われてるテストに進路検定も未来のための頑張り時だ（３年女子）

生徒それぞれの心境や状況が表れていて興味深い短歌ができた。

資料１

西日本新聞　12/14　漢字１文字で一年を振り返る。

コラム「春秋」を読み，自分の漢字を書く。生徒の数だけ漢字がある。

友，充，喜，諦，苦，愛，忙，考，伸，健，詰，楽，心，疲……

毎日新聞　1/15　学校と私　歌手・俳優のＤＡＩＧＯさん

「ＤＡＩ語」で学校を「『Ｊ・Ｔ・Ｂ』＝自分を作る場所」と表したのを参考に作らせた。

「Ｔ・Ｗ・Ｂ」＝共に分かち合う場所（１年女子）
「Ｊ・Ｋ・Ｓ」＝自分の個性を探す（１年男子）
「Ｔ・Ｓ・Ｓ」＝挑戦・失敗・成長（２年女子）……

感想や意見を記入させるだけでなく，自分のことを表現させる時間にした。短時間にもかかわらず，ユニークなものができたことに驚いている。毎週金曜日の朝に図書委員が「ＮＩＥタイムを取りに来ました」と職員室に入ってくる声を聞くと，今日はどんなことを書いてく

れるのだろうと期待が高まった。今年度は生徒玄関にＮＩＥコーナーを設け，新聞の第１面を掲示すると同時に，生徒の書いた感想・意見の一部をコピーして掲示した(**資料１**)。

⑵　南日本新聞の広場欄「若い目」への投稿

行事ごとに作文を書かせようとしたが，うまく行かなかった。８月に「若い目賞」をいただいた。

⑶　校内掲示の工夫

生徒玄関とＮＩＥの部屋への掲示ができた。

⑷　小論文・作文の個別指導での活用

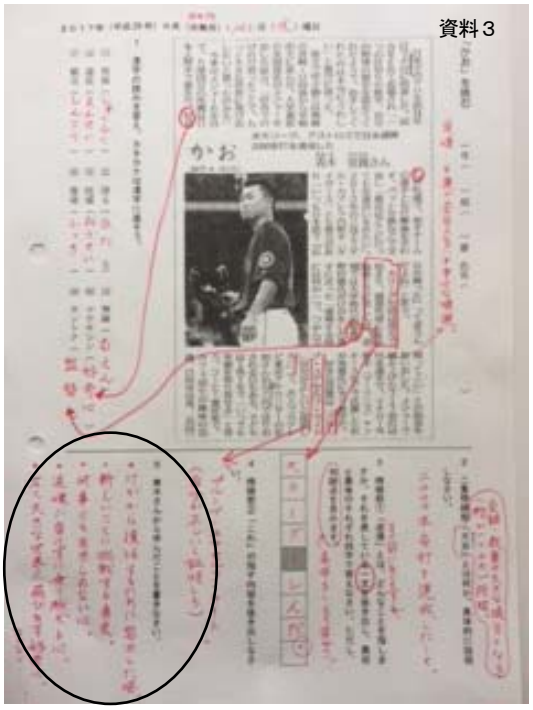
昨年度同様，３年生の進学希望者を対象に「小論文ノート」を作らせた。書き方の基本を学び，個人指導へ移行した。

⑸　「かお」を読む

南日本新聞の「かお」を用い，読解力・表現力といった国語力を伸ばしたいと計画した。現在担当している１年生では「職業調べ」という課題に取り組んでいるが，さまざまな分野で活躍している人の生き方は職業観を養うためにも最適な記事である。さらに，短時間で活用しやすいこともあり，ほぼ毎時間継続してきた。「かお」の利点は，毎日同じ大きさで字数がほとんど変わらないことである。そのため，準備も同じスタイルのプリントで対応できる。また，話題の人がどんな理由で取り上げられているのか読み取りやすく，どのような努力をして今の立場に至ったのかといった，参考にすべきことが凝縮されている。政治・経済や国際社会関係の難語句もあるが，「継続は力なり」の精神で授業最初の５分間を「かお」を読み書く活動にあてた。係にプリントを配らせ，開始と同時に取り組ませる。中には，授業前から読み始める者もいて，「かお」の魅力を改めて感じた。準備できない日があると，「今日は『かお』ないの？ノーフェイス？」などと尋ねる生徒もいた。少しずつ習慣化されつつあった。

５月23日（火）の田中秀昌さん（近畿大学野球部監督）から１月22日（月）の張本智和さん（卓球選手）まで86人を扱った。基本的に前日か当日に掲載された人を取り上げた。男性65人に女性は21人（男性の３分の１程度）で，県内関係者が30人を占めており，本校の卒業生も掲載されていた。スポーツ関係者（監督，選手）が３割と多かった。どの記事も苦労に対する処し方や努力の大切さなど，時の人の生き方がまざまざと映し出されており，生徒たちにとって共感できるものが揃っている。資料を準備するのに若干時間がかかるが，非常に有効な学習教材であると捉えており，世の中の動きを知る上でも重要な「かお」だと認識している。

準備するプリントは次の通りである(**資料２**)。①漢字の読みと書き取り（記事から探し出すだけ。「務める」「勤める」は頻出だった），②慣用表現，（白羽の矢が立つ，苦杯をなめる…），四字熟語（空前絶後，十人十色…），漢字の構成〈漢字検定対策〉（反対の意味，修飾被修飾の関係，動詞目的語の関係，同じ意味を持つ漢字…），対義語（積極的，革新的…），カタカナ語（ストイック，パブリックビューイング…），指示語，③「かお」氏の生き方に関すること（信念，座右の銘など），④「かお」氏から学んだこと。大きく分けて４つになり，記事の中身に合わせ問題を作成した。読解した後は，簡単な答え合わせを行い回収し，裏面に解答例(**資料３**)を印刷して次時に返却する。上述の④「かお」氏から学んだことは，生徒の書いたものを複数(**資料３**楕円部分)載せておき，友人の考えを確認させ共有させた。



「かお」プリントに関するアンケート

○　漢字の読み書きはできたか？

ア　できた	32.8%
イ　まあまあできた	65.5%
ウ　あまりできなかった	1.7%
エ　まったくできなかった	0%

○　対義語や慣用表現などの問題はできたか？

ア　できた	7.0%
イ　まあまあできた	82.7%
ウ　あまりできなかった	10.3%
エ　まったくできなかった	0%

○　読解力や表現力がついたか？

ア　ついた	22.4%
イ　少しついた	72.4%
ウ　あまりつかなかった	3.5%
エ　まったくつかなかった	1.7%

○　読む前と後ではあなた自身に何か変化があったか？

ア　あった	18.9%	イ　すこしあった	25.9%
ウ　あまりなかった	50.0%	エ　まったくなかった	5.2%

・土日など新聞を見るようになった。
・新聞に興味を持てた。
・読める漢字が増えた。
・速読ができるようになった。……

○　これまで印象に残っている「かお」ベスト５

１位　原晋さん(1/4　箱根駅伝で４連覇した青山学院大監督)
２位　本田まりあさん(11/30　気象予報士試験に最年少の小６で合格)
３位　羽生善治さん(12/6　竜王奪取永世７冠，1/6　将棋界で初の国民栄誉賞)
４位　ピコ太郎さん(9/26　活動を世界に広げる歌手)
５位　張本智和さん(1/22　卓球全日本選手権最年少優勝)

○　「かお」を読んだ感想

・毎回いろいろな職業の「かお」のインタビューが読めておもしろい。
・「かお」を読むだけで読解力だけでなくその人がどんな人かなどもわかって面白い。
・「かお」をすることで，多くの人の経験から学ぶことばかりでいろいろなことについて知れる。
・文章問題の練習になるので，とてもいいなと思います。
・「かお」をするのが楽しくなった。
・読みやすい文なので読む気になる。
・夢を叶えるためには努力しないといけないと強く感じた。

⑹　「かお」を書く

「読むこと」から「書くこと」へのステップアップである。「かお」の共通点や気づいた点などを挙げさせ，文章の分析を行った。分析結果は次の通りである。

・600字前後で書かれている。
・形式段落が５～７段落で構成されていて，大きく分けると３段落になる。
・第一段落は，取り上げられたトピックとしての現在の状況や様子について書かれている。
・第二段落では，現在に至るまでのこと（過去のこと）で，苦労話やエピソードなどについて書かれて

いる。文末表現も過去形になることが多い。
・第三段落は現在に戻り抱負や夢などに触れ，住所・年齢・家族や趣味等を書いて結びとなる。
　このような分析に基づき表現活動に移った。５人一組のグループで役割分担（インタビュー係，作文係など）し，職員にインタビューしたあと，段落ごとに文を整理し記事をまとめていくというものである。「現在→過去→現在・未来」という流れをできるだけしっかり押さえて書くようにアドバイスした。次の文章は，同一教諭を取材した「記事」である。なお，この実践は２クラスで行った。

【数学科　M教諭】

鹿児島県内の鶴翔高等学校で数学の教員として勤める。「二学期のテストで欠点者が少なくなったことが嬉しい」と振り返りながら自分の働きで生徒がいい方に変わるのは嬉しいが，言うことを聞かない生徒もいると苦笑いを浮かべた。 教員を目指したのは大学生の時で，教員の他に銀行員や証券会社など計算を多く使う仕事も選択肢にあったが，数学を教えたいという気持ちから教員に気持ちが傾き大学生活の途中で決意を固めた。 その時から教員採用試験に向け日々勉強に励んでいた。受かったときは落ちた人もいたのであまり喜べなかったが素直に嬉しいと思うと同時に，翌年から生徒に数学をわかりやすく教えていこうという気持ちが芽生えたと懐かしそうに語った。 生徒に数学を教える時に指導のタイミングや範囲に気をつけている。答えを教えずわからなかったら一旦戻ってやり方を教えるなどして，生徒に「自分で考える力」をつけさせることを意識し日々仕事をこなしている。来年度の２年生が数学ができるよう，自分の仕事に責任もってと来年の目標を立てている。 現在，妻と二人暮らしで，生徒に数学を教えると同時にサッカー部の副顧問もしており，10月の秋の地区大会で３位に入ったことが嬉しかったという。サッカーとは別にゴルフもやっており，今年スコアが70台にのるほどの腕を持っている37歳。

教師になって10年目の現在，鶴翔高校１年２組の副担任として日々頭を悩ませている。 大学時代，教師への夢を抱き，そこで改めて勉強も大切だが，社会への礼儀も大切だと考えた。「高校生と大学生の時の価値観がガラリと変わった。自分自身が変わったから，さまざまな価値観を知ることができた。」学生の頃に思っていたよりこの職業が楽しいと感じたという。学生時代は思いの外，淡泊だったと語る。常に世の中の高校生の可能性を広げる手伝いをしたいなど生徒思いの部分も見せる。 教師という職業上，さまざまな人との関係を大切にしなければならない。そんな中，気持ちが上向きになる瞬間は，「言いたいことがきちんと伝わり，生徒自身が良いように変わっていくこと。」逆に「生徒がへこんだときや，生徒が大学に落ちたときは自分も落ち込む」と語る。 現在の目標は，自分で考え判断し，自信をもって行動していける生徒を育てること。そのためには言い過ぎても言い過ぎでなくても駄目で，絶妙なタイミングが大事だと考えている。 現在，鶴翔高校でサッカー部の副顧問をしている。趣味は，サッカー，ゴルフをすることでスポーツが好きだという，現在妻と二人暮らしの37歳。

　授業に新聞を取り入れることで，生徒が積極的に自分を見つめたり他者と関わったりするようになり，ほんのわずかではあるが読解力や表現力も伸びてきたようだ。これからも新聞とじっくりと向き合う時間を設け，新聞のことが話題となるような環境を整え，学校生活を充実させたい。

３　今後の展望と課題

⑴　ＮＩＥタイムは，図書委員会の協力を得て来年度もできるかぎり毎週続けていく。
⑵　「若い目」への投稿を毎月行う。
⑶　生徒が新聞に触れる機会をさらに増やす。
⑷　全校を挙げて新聞を取り入れた授業を推進する。